

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|-----------|-----------|
| 事業所番号 | 3590104166 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 夢の会 | | |
| 事業所名 | グループホーム夢ごこち | | |
| 所在地 | 山口県下関市長府才川 1丁目41-76 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年2月26日 | 評価結果市町受理日 | 令和2年7月16日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-----------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク | | |
| 所在地 | 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内 | | |
| 聞き取り調査実施日 | 令和2年3月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時に作った理念に沿い、介護職員が自分や自分の家族が入りたいと思えるようなグループホームを目指している。認知症の状態になったとしても、家族や職員、地域が手助けすることで普通の生活ができることを地域の方々に知って頂きたいと考えている。「のんびり」「一緒に」「楽しみながら」我が家で過ごしていた頃と同じように買い物や調理などの家事をしたり、同年代の入居者同士がおしゃべりをして、笑顔で過ごすことができるように支援している。食事は朝、昼、夕3食とも事業所で作り、出来立てのものを食べて頂いている。入居者は買い物や下ごしらえ、盛り付けなど、できることを職員と一緒にして、季節の行事食、誕生日のメニューやケーキ、お弁当や夕食、梅漬け、らっきょう漬け、干し柿など、食べることの楽しみを多く企画している。また、毎月、それぞれの季節に合った場所に遊びに行き、夕食をしてとても喜ばれている。入居者一人ひとりの思い、その人の個性を大切に、個別への対応ができるように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝の挨拶やお茶の時間の会話の中で利用者の好みを聞かれ、季節を取り入れた献立を作成されて、三食とも利用者と職員が一緒に食事づくりをしておられます。利用者御できることを活かされて、梅干しやらっきょう漬け、干し柿づくりなどの保存食づくり、おやつづくりなど、活躍出来る場面づくりをされて、張り合いや喜びにつなげられるように支援しておられます。毎日の生活の中で利用者一人ひとりが戸外で気持ちよく、生き生きと過ごせるように、近隣の散歩、コンビニエンスストアやふるさと市場への買い物、月1回の外出では、美術館や公園、水族館、芋掘り、夕食(中華料理、回転寿司など)に出かけておられるなど、日常的な外出支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|--|-----------------------|---|
| 57 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 64 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 58 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 65 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 59 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 60 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 63 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 開設時に作った施設理念を共用部に掲示し、職員会議、朝の申し送り時に唱和している。職場内にて理念について研修を行い、職員全員で共有して理念の実践につなげている。新規職員にも理念研修を行っている。 | 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員会議や申し送り時に唱和し、内部研修で理念について学び、日常業務の中で話し合い、その理念を共有して実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ボランティア(書道、フルート、歌、フラダンス等)の訪問がある。散歩や買い物時には近所の方、お店の方、入居者と知り合いの方が声をかけて下さり、立ち話をしている。季節の花や野菜の差し入れがあり、日常的に交流がある。災害時に地域の避難場所となるよう運営推進会議にて話し合っている。 | 自治会に加入し、1階の交流スペースを地域の「高齢者の生き生きサロン」の場として提供している。利用者は、公民館で開催している市民学級「みんなで歌いましょう」に他のグループホームにも声かけをして参加している他、公民館祭り、フルート演奏会に出かけている。法人が運営している認知症カフェに参加して、地域の人と交流している。ボランティア(書道、フルート演奏、フラダンス)の来訪がある。利用者は、近隣の散歩やコンビニエンスストア、ふるさと市場などに職員と一緒に出かけ、地域の人と挨拶を交わしている他、近所の人から季節の花々や野菜の差し入れがあるなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて地域の方々に向けて、認知症の専門知識を活かし、認知症の人の理解や支援方法の情報を提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 自己評価と外部評価の意義や活かし方を職員に伝え、全職員に書類を配布し、職員が記入したものを管理者がまとめている。自己評価を記入することにより、日頃の業務を振り返ることができ、指摘を受けた所は改善し、良い所は継続していくように取り組んでいる。 | 管理者は、職員に評価の意義について説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、管理者がまとめている。評価に取り組むことで課題や日常業務を振り返る機会としている。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立て、内部研修で全職員による応急手当や初期対応の訓練を実施している他、災害時の地域との協力体制の構築に向けての取り組みなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催している。入居者の状況、行事、ヒヤリハット、外部評価結果、避難訓練について報告、意見交換を行っている。また、地域住民の意見、提案をもとにサービス向上に努めている。災害時だけでなく、普段から地域の高齢者や家族の利用の場となるよう、努めている。 | 会議は、特別養護老人ホームと合同で年6回開催している。利用者状況、行事予定、事故報告、避難訓練などについて報告し、話し合いをしている。事業所を水害時などの一時避難場所として提供することを話し合っている他、地域の土砂災害の避難訓練への職員の参加など、そこでの意見をサービス向上に活かすように取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の担当者とは直接出向いて、書類を提出し相談や情報交換を行い、電話でも相談を行い、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議にて意見交換を行い、連携を図っている。 | 市担当者とは、運営推進会議時の他、電話や出向いて相談や情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換したり、認知症フェアの情報を得ているなど、連携を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (6) | <p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>職員は職場内研修や身体的拘束適正化委員会にて学び、禁止の対象となる行為について理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新規職員にはマニュアルに基づいて研修を行い、理解している。玄関の施錠はしているが、外出傾向の強い入居者については職員が寄り添い、一緒に出掛けている。全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> | <p>「身体拘束適正化のための指針」を基に、内部研修で学んでいる他、「身体拘束適正化委員会」の中で検討し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。事業所は交通量の多い国道に面しているために、玄関の施錠はしているが、外出したい利用者とは職員と一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックは研修で学び、気づいた時には管理者が指導したり、職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> | |
| 8 | | <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>虐待について研修を行い、日頃より利用者の身体、精神的な状態を十分に把握した上で異常や変化に注意し、申し送り時や職員会議を通じて、情報の共有化を図り、防止に努めている。</p> | | |
| 9 | | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p> | <p>全職員が制度の理解に努め、研修等に参加し、活用できるように支援に繋がりたいと考えている。</p> | | |
| 10 | | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>契約時、改定等の際は入居者の家族が十分に納得されるまで説明を行い、理解、納得を図っている。</p> | | |
| 11 | (7) | <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>相談、苦情の受付体制や処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。家族会、面会時に意見や要望を聞き、連絡ノートに記入し、職員間で共有している。電話やメールでの相談にも応じている。入居者の方々から畑仕事をしたいとの意見があり、近隣の方の畑に行き、野菜等の収穫をさせて頂いている。</p> | <p>契約時に苦情、相談の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。面会時、年3回の家族会、誕生日会等の行事参加時、電話やライン、利用者の日々の状況を知らせる事業所だより送付時などで、家族等からの意見や要望を聞いています。職員は、意見や要望を「連絡ノート」に記録して、共有している。家族から足浴をさせて欲しいという要望があり、毎日のケアに取り入れているなど、反映させている。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は職員会議や申し送り、日々の業務の中で職員の意見や提案を聞き、改善に努めている。職員希望による人事異動、駐車場の確保、入居者の歩行器のレンタル等、提案があり、運営に反映している。 | 管理者は、月1回の職員会議時や申し送り時、日常業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。駐車場の確保や利用者の歩行器のレンタルや職員の希望する人事異動等の意見や提案を反映させている。 | |
| 13 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者を通し、職員個々の勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持ち続けるよう、職場環境、条件の整備にあたっているが、給与水準の条件の整備には至っていない。有給休暇は取りやすくなっている。 | | |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は職員に事前に情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供し職員会議で報告し共有している。内部研修は接遇マナー、感染症予防、看取りケア、緊急時の対応、認知症、虐待防止などテーマを決め、月1回開催している。新任研修はマニュアルに基づいて認知症についての基礎知識を学んだ後、管理者や先輩職員の指導を受け、日々の業務の中で働きながら学べるように支援している。 | 外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は介護福祉士実習指導者講習会、グループホームの災害対策など、年4回参加している。研修記録は閲覧している他、職員会議時に復命し、資料はいつでも閲覧できるようにしている。法人研修は、企業理念、行動指針、介護保険制度の改正に参加して、共有している。内部研修は、法人のグループホーム間で話し合っって年間計画を作成し、接遇マナー、理念の共有と実践、認知症、緊急時(災害時)の対応、プライバシーの保護、看取り等を月1回、実施している。新人研修はマニュアルに基づいて説明し、管理者や先輩職員の指導を受けて、働きながら学べるように支援している。 | |
| 15 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部で開催される研修に積極的に参加し、情報交換を行い、お互いのサービスの質の向上に役立っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 16 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | しっかりと本人の話に耳を傾け、伝えたい事、思いを理解し、安心して、その方らしい日常が送れる様、努めている。また、家族からも本人に関する思い、情報収集に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談に来られた段階より、家族の思いやこれまでの経緯、今後の要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。 | | |
| 18 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 管理者、ケアマネが訪問調査を行い、本人、家族との対話、状況を見て、今この時必要な支援を見極め、臨機応変、柔軟な対応に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の状況に応じて出来ることの支援を心掛け、一緒に食事をしたり、お茶を飲んだり、家事をしたりと共に暮らしている者同士の関係を築く努力をしている。 | | |
| 20 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は家族会や面会時に情報交換しながら、本人が家族に望んでいる事、家族にしかできない事を日頃の関わりの中から察知し、互いに協力しながら、支える関係作りに取り組んでいる。 | | |
| 21 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や親せきの人の訪問や年賀状、電話の支援や馴染みの美容院の利用、外出、墓参り、お盆やお正月などの一時帰宅等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。 | 家族の面会や親戚の人、知人、友人等の来訪がある他、年賀状や手紙、電話の取り次ぎなどでの交流を支援している。馴染みの商店での買い物、自宅周辺のドライブなどの他、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、盆や正月の一時帰宅、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者が孤立しないよう、常に目配り、気配りを行い、状況に応じて、良好な関係作り、関わり合いができるように努めている。 | | |
| 23 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | お見舞いや電話をする等して必要に応じて、相談支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 24 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の入居者の様子を24時間生活変化シートに記録し、職員会議にて検討し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は家族から話を聞いたり、職員間で話しあって、本人本位に検討している。 | 入居者時の「基本情報シート」を活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子や気づきなどを、「私の姿と気持ちシート」や「24時間生活変化シート」に記録し、職員の気づきや工夫は「入居者ノート」に記録して、職員会議で検討して利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得て、職員間で話し合い本人本位に検討している。 | |
| 25 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族やケアマネからの情報収集に努め、これまでの経過等の把握に努めている。 | | |
| 26 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の過ごし方、心身の状態など記録し、職員会議で話し合い、全職員が現状の把握に努めている。 | | |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を基に計画作成担当者、入居者の担当職員が中心となって介護計画を作成している。毎月、モニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。入居者の状況に変化がある場合には、その都度、家族や医師、関係者の意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作成している。 | 月1回、計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心にカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医、訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、家族の要望に応じての見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子は24時間生活変化シートに記入、気づきや工夫は入居者ノートに記入している。職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 29 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 協力医療機関への受診支援等、その時に生まれるニーズ、本人の状況に応じて臨機応変、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。 | | |
| 30 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 消防署職員指導での避難訓練、スーパーや市場の利用、自治会行事への参加を通じ、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。 | | |
| 31 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回往診がある。受診結果は連絡ノートに記録し、家族には電話やメールで知らせている。看護師による健康チェックがあり管理している。緊急時はかかりつけ医の指示を仰いで適切な医療を受けられるように支援している。 | 本人や家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。2週間に1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得ての受診となっている。利用者の状態等の情報を医師に伝えている。受診結果は連絡ノートに記入し、職員間で共有している。家族には電話やメールで結果を伝えている。利用者は週3回の訪問看護師による健康管理を受けている。夜間や緊急時には医療機関と連携して適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 32 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は入居者の小さな変化に気付ける様、日頃からの関わりを深め、気づき、不安な事を伝え、適切な受診が受けられるよう、努力している。 | | |
| 33 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者が入院した際、医療機関に本人の支援方法や情報を提供し、定期的に見舞い、情報交換や相談を行い、関係作りを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|---------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に重度化した場合について家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から本人や家族の意向に添って主治医、看護師と話し合い、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。 | 契約時に「看取りに関する指針」に基づいて、事業所でできる対応について本人、家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から、本人や家族の意向に添って、主治医や看護師等と話し合い、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。 | |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | ヒヤリハット報告書または自己報告書に発生状況や対応策を記録し、職員会議で検討し、一人ひとり事故防止に取り組んでいる。内部研修では応急手当(傷・怪我、止血法、AEDの使い方)について学び、職員全員が冷静に判断し、実践力を身につけるように努めている。 | 事例が生じた場合は、その日の職員間でヒヤリハットに原因、改善すべき点等を記録し、事故報告書に事故の概要、対応の状況等を記録して、申し送り時に職員に周知し、職員会議時に再検討して利用者一人ひとりの事故防止に努めている。内部研修で応急手当(心肺停止、出血を伴う事故、誤嚥、転倒、骨折など)や救急車要請マニュアルに基づいての訓練を実施しているなど、実践力を身につけるように取り組んでいる。 | ・全職員が応急手当や初期対応の実戦力を身につけるため訓練の継続 |
| 36 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の指導のもと、年2回、火災通報避難訓練を実施している。その内1回は夜間想定し、入居者も参加して行っている。地域の土砂災害避難訓練に参加し、地域との協力体制を構築しているところである。地域の避難場所となるよう、運営推進会議にて周知している。 | 年1回、消防署の協力を得て、拠点施設合同で昼夜想定火災時の通報、避難誘導、消火器の使い方、避難経路の確認の訓練を利用者も参加して実施している他、年1回、拠点施設として防災管理者や職員で避難訓練を実施している。地域の土砂災害避難訓練に職員が参加している他、運営推進会議で地域の一時避難場所として提供することを周知してもらうなど、地域との協力体制の構築に向けて取り組んでいる。 | ・地域との協力体制の構築 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 37 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 内部研修で接遇を学び、入居者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉遣いや対応をしている。守秘義務を徹底し、個人情報の取り扱いに注意している。 | 内部研修で接遇マナー、プライバシー保護、個人情報の取り扱いを学び、利用者を人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の管理や取り扱いに留意すると共に、守秘義務についても遵守している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で入居者一人ひとりの力に応じて、自己決定できるように入居者の希望、関心、嗜好を見極めるように努めている。 | | |
| 39 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員間で協力しながら、その日の天候、体調、気分を観察し、できるかぎり本人の思い、希望に応じた一日を過ごして頂けるよう入居者のペースにそって支援している。 | | |
| 40 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に美容師が来訪し、カットを実施。行きつけの美容院にも行くことができる。また、家族と相談し、ホーム内にて職員によるヘアカラーを実施している。 | | |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 3食とも事業所で調理し、買い物にて旬のものを購入できる。献立は職員が決め、入居者の状況に応じ、刻み食の対応をしている。入居者と一緒に買い物から調理、盛り付け、おぼん拭き、配膳、台拭き等、一人ひとりの能力に応じて行っている。季節の行事食(おせち、恵方巻、ちらし寿司、そうめんなど)誕生日のメニュー、手作りケーキ、梅漬け、らっきょう作り、干し柿、外食、お弁当など楽しみとなるよう支援している。 | 朝の挨拶やお茶の時間の会話の中などで、利用者の好みを聞き、季節を感じられる献立を作成し、利用者と一緒に毎日買い物に行き、三食とも事業所で調理している。利用者の状況に応じて食べやすい形状の工夫をしている。利用者は、食材の下ごしらえ、米を砥ぐ、味つけ、お茶くみ、盛り付け、お盆拭き、台拭きなど、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(ホットケーキ、どら焼き、誕生日のケーキなど)、保存食づくり(梅干し、らっきょう漬け、干し柿)、季節の行事食(おせち、恵方巻き、そうめんなど)、月1回の外食(回転寿司、ホテルレストラン、カフェ、中華料理、蕎麦など)、年1回の家族会時の食事などの他、家族の協力を得ての外食等で食事を楽しむことのできる支援をしている。 | |
| 42 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本人の状況に応じた形態で食事を提供している。摂取量は日々のケース記録に記入し、細めな水分補給を心掛け、外出時、体操後、入浴後の水分補給を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりの状態、能力に応じて、毎食後の口腔ケアの支援を行っている。また、訪問歯科医の助言を受け、従っている。 | | |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 24時間生活変化シートと健康チェック表の排泄欄に記録し、排泄のパターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。 | 「24時間生活変化シート」と「健康チェック表」を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけや誘導をし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 45 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を参考に排便サイクルの把握に努め、食事での食物繊維や乳製品の摂取を心がけて、毎日の体操、腹部マッサージなどで一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。 | | |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は毎日可能。入居者の体調に応じ、14時から16時の間に一人ひとりがゆっくり入浴が楽しめるように支援している。希望に沿って入浴剤や季節感を味わえるよう柚子風呂にしたり工夫している。入浴したくない方には、時間をずらしたり、職員が変わったり言葉かけを工夫し、支援に繋げている。体調やその方に合わせて、個別に足浴やシャワー浴の支援をしている。 | 入浴は毎日可能で、14時から16時の間にゆっくりと入浴できるよう支援している。利用者の体調に応じて清拭、シャワー浴、足浴の対応をしている。入浴をしたくない人には無理強いをせず、時間を変更したり、職員の交代、言葉かけの工夫をするなど、個々に応じた入浴の支援をしている。 | |
| 47 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの状況、生活習慣に応じ、就寝、起床時間を支援している。また、体調など配慮し、いつでもゆっくりと自室で休めるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が入居者の服薬管理一覧表を基に目的、副作用の理解に努め、服薬セットを行い、チェック段階において確認の強化と飲み忘れがないようにしている。薬の変更時には経過観察を徹底している。 | | |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や力を活かし、食材の買い物、調理、盛り付け、配膳、台拭き、洗濯物干し、たたみ、掃除、塗り絵、体操、雑誌を読む、生け花、季節行事(初詣、節分、ひな祭り、七夕、運動会、クリスマス会など)、コンサート、家族とのふれあい、ボランティアとの交流など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 季節の行事(拠点の夏祭り、敬老会、七夕、運動会、クリスマス会)、お誕生日会、ボランティア(書道、フラダンス、フルート演奏)との交流、新聞を取り込む、花を活ける、花瓶の水替え、洗濯物たたみ、カーテンの開閉、プランターの水やり、お茶出し、編み物、雑巾縫い、テレビやDVDの視聴、ラジオやCDを聴く、日記をつける、本や雑誌を読む、写真集を見る、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、習字、歌を歌う、カルタ、トランプ、百人一首、風船バレー、カレンダーづくり、ボール遊び、リハビリ体操、口腔体操、テレビ体操、脳トレ(漢字、計算、なぞなぞ、しりとり、四文字熟語など)など、活躍出来る場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。 | |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物、毎月の外出(美術館、公園、巖流焼き本舗、芋ほり、水族館、初詣)、ドライブ、外食(回転寿司、ハンバーガー、蕎麦、中華料理)、同一法人のグループホームでのそうめん流しの参加や家族の協力を得て外出、法事、美容院等、一人ひとりの希望に添って、外出できるように支援している。 | 近隣の散歩、食材の買い物(コンビニエンスストア、ふるさと市場)、美術館、公園、芋掘り、水族館、初詣、外食(回転寿司、中華料理など)、公民館行事(公民館祭り、フルート演奏会)や法人の施設行事(認知症カフェ、夏のそうめん流し)に出かけている他、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、外出、外食、盆や正月の一時帰宅、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるように支援をしている。 | |
| 51 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人が欲しい物、必要な物がある時には家族の了解を得て、立替金から購入している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀ハガキに写真を入れ、名前を書いて頂いて、郵送している。希望により、家族への電話の支援を行っている。 | | |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やリビングに花を生け、日頃から季節感が伝わるように努め、台所からは食事を準備する音や匂いが五感を刺激し、生活感を感じることができる。また、ソファや椅子を配置し、一人ひとりが思い思いの場所でゆったりとくつろげるよう居場所づくりの提供を行っている。温度、湿度、換気に気を配り、居心地よく過ごせるように工夫している。 | 事業所は拠点施設の3階にあり、窓からは周辺の街の様子が一望できる。リビングには、花を活けて季節を感じることができる。対面式の台所からは調理する音やご飯の炊ける匂いがして、生活感を感じることができる。壁面には利用者の作品や行事の写真が飾っており、一人ひとりが思い思いの場所でくつろげるよう、ソファがゆったりと配置してある。温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしてる。 | |
| 54 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 机やソファ、椅子をそれぞれに配置し、気合う入居者同士で過ごしたり、その時の思いにあう居場所の工夫をしている。 | | |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人・家族と相談しながら、テレビ、タンス、化粧品、家族写真など使い慣れた物や大切な物を持ち込み、自宅と同じように配慮し、その人らしい部屋を作り、居心地良く過ごせるよう工夫している。 | ベッドや寝具、タンス、クッション、テレビ、カセットラジオ、時計、雑誌、本、衣裳ケース、衣裳掛け、スタンドなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、写真やカレンダーなどを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | |
| 56 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室・トイレ・玄関の扉は引き戸で手すり設置の充実や共用部のトイレは表示をしている。入居者の方々の動線を考え、家具の配置をしている。 | | |

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 夢ごこち

作成日: 令和 2 年 7 月 15 日

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--------------------------------|-----------------------|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるため訓練の継続 | 全職員による応急手当や初期対応の実践力向上 | ①定期的な応急手当・緊急時の対応の訓練の実施 ②応急手当講習テキストの活用 | 12ヶ月 |
| 2 | 36 | 地域との協力体制の構築 | 災害時における地域との協力体制の構築 | ①災害対策マニュアルの確認 ②災害想定訓練の実施 ③地域住民の協力者の確保 | 12ヶ月 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。